

いつもあなたのパートナー！
みんなでつくろう福祉のまち大野

第5次大野地区地域福祉活動計画

はじめに

陽春の候、地区の皆様にはご壮健にてご活躍の事お慶び申し上げます。平素は大野地区社会福祉協議会の様々な事業推進にあたり、ご理解、ご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、今年度から第5次大野地区地域福祉活動計画の策定の年です。策定にあたり策定委員会を立上げし、第4次の福祉活動計画の実施内容を精査し評価してまいりました。5次の福祉活動計画では、第4次の活動実績から皆様から好評な事業を継続し、さらに内容の充実や新たな活動も含めて討議を重ねてまいりました。特に、大野地区の教育資源でもある松江総合医療専門学校様との連携を深め、さらになごやか寄り合い事業などを推進したいと思っております。専門学校には、理学療法科、作業療法科、看護学科、松江看護キャリア支援センター（認知症認定看護師教育機関）があり多くの教材器具などがあり、器具の使い方や実習見学を通して各担当科の先生や生徒様と健康器具の使用や個人的に体調相談などの場として利用させていただき、双方がコミュニケーションを深めて頂く為にも各自治会単位または、なごやか寄り合い事業などで是非とも学校訪問されることをお勧めいたします。大野地区は、少子化、高齢化、人口減少するなかで地域の皆様がお互いに支えあいながら（近助の力）健康で健やかで毎日が楽しい生活を送っていただき、環境に恵まれた大野、みんなでつくろう福祉のまち大野を目指して松江総合医療専門学校様、民生児童委員様、福祉推進委員様をはじめ地区の皆様方のご支援、ご協力をお願いします。大野地区社会福祉協議会の財源は厳しいものがあります。自治会加入の減少、家族葬などで篤志金の減少もあり福祉の充実をさらに推進するのは大変ではありますが、この度の第5次福祉活動計画はより活動しやすい計画といたしましたので地域の皆様の多数参加をお願い申し上げます。本計画の策定にあたり、ご指導いただいた市社協大野担当者、市保健センター保健師、松江総合医療専門学校様はじめ、策定委員の皆様方には、貴重な提言いただき心から厚く御礼申し上げます。

平成31年3月

大野地区社会福祉協議会

会長 多久和 宣久

第4次大野地区地域福祉活動計画の評価

大野地区では、平成26年度に『いつもあなたのパートナー！みんなでつくろう福祉のまち大野』を福祉目標とし、第4次地域福祉活動計画を策定し、平成26年度から平成30年度まで福祉活動に取り組んできた。策定小委員会で第4次の4年間の取り組み状況を振り返り、これからの第5次地域福祉活動計画がさらに地域に密着した福祉活動となるよう検討してきた。

○第4次の基本目標

1 福祉の人づくり

地域を支える思いやりと感謝の心で福祉活動に参加する。今後一層ボランティアの活動が求められている。「ボランティアネットワーク」を設置し、無理なく、広く、参加しやすい環境をつくり、地域福祉の輪を広げる。

2 自治会の福祉ネットワークづくり

地域の絆を深め、無理なく、地域の見守り、助け合い、支え合いの輪を広げる。

3 住みやすい生活環境の整備

すべての地域の人々が安全安心に暮らせるよう生活環境の整備を図る。バリアフリーのまちづくりを推進する。

4 生活課題を解決する

福祉課題や福祉ニーズに対し、気軽に相談に応じる体制を充実する。

○第4次の重点活動項目

1 なごやか寄り合い事業の推進、誰でも参加しやすい事業、全地域で立ち上げる。

2 個人、家庭、地域団体が連携し「生涯現役」を目指した健康づくり活動を推進する。

3 福祉講座の開催 施設訪問などを通して、高齢者、障がいのある人について理解を深め福祉を学び、人権意識を高める。

4 高齢者、要支援者への見守り、訪問活動の強化 平常時、緊急災害時の地域・隣保見守り、助け合い体制を整え、災害時要援護者避難支援登録制度の定着を図る。

5 子育て支援活動を推進する。

○第4次計画取組みの成果と課題

(福祉一般)

- ・相談しやすい体制づくりの為、公民館で対応ノートを作ったが直接の相談なかった。問題事案が民生児童委員などを通じて適切となる形で解決したのではないかな。
- ・福祉講座座談会は、集落の福祉課題について協議する事はなかったが、包括支援センターなども入って概ねやっているのでは。
- ・おおの夏まつり 実行委員会によって各々の部で30代～40代の方々がおおのを元気(活力)にするために積極的に取り組んでいる。子供からお年寄りまで楽しく交流が出来て良い。
- ・若い人にも魅力ある住みやすい町づくりを目指し、視点を変えた新たな定住対策の一つとして、12月には古江、秋鹿の体育協会と連携し合同で婚活ソフトバレー大会を行った。

- ・各種スポーツイベント・町民体育祭・ふるさと祭り・敬老会・高齢者生きがい事業などを通じて、世代間交流、学びの場の提供が出来た。
 - ・生活環境の充実面ではコミュニティバスの利用促進を図っているが、十分に大勢の方の要望に添えない所もあった。交通弱者にとって電車も同じ、交通手段がなくなれば大変である。いろいろな改善策を模索している。
 - ・大野の郷との連携では買い物支援で繋がりも強くなった。
 - ・松江総合医療専門学校との連携は 29 年度から、なごやか寄り合い会への講師依頼や寿会との交流などお互いメリットがある関わりが持てた。
- 30 年度は、各地域で開催していた「まめで長生き講座」の見直しで専門学校と連携し初の「おおの健康フェスティバル」を開催した。第 5 次福祉計画では更に充実したい。
- ・福祉講座の開催の面では概ねできたが、いろいろな所で開催される福祉、健康講座を情報収集し、広く周知し、多くの住民に参加してもらうよう努める。

(高齢者)

- ・なごやか寄り合いでは世話人会議を通して情報交換しあい、より楽しくみんなが集まれる場を提供できている。世話係は民生委員、福祉委員が中心であるが、今後は若い方のボランティアの応援が必要である。
- ・日常生活に時々支障をきたす生活を送っている独居老人がおられる。住宅の補修、水道蛇口の水漏れ、ガスコンロの点火不良、電気器具の点灯不良など簡単な修繕でも近くに頼れる人がいない。ボランティアネットワークづくりが急がれる。
- ・配食サービス訪問活動および声かけ活動 高齢者への弁当、ケーキのプレゼント。大変だと思いがお年寄りの皆さんは楽しみにして喜んでもらっている。訪問活動が定着していて大変良い。高齢者宅へ訪問した状況が逐次集約できれば今後の見守り活動に大変役立つ。
- ・高齢者、要配慮者への見守り訪問活動 地区民生委員と福祉推進員の連携を密にし、情報を交換しキメ細かく対応するにはまだあらゆる課題がある。
- ・緊急災害時に備え隣保の見守り、助け合いについて話し合いがされていない。災害はいつ起こるかわからない、昼起こるか、夜起こるかわからないので若い人がいない昼間の対応を平素から検討し、各自主防災隊で台帳を作成する必要がある。
- ・災害時要援護者避難支援登録制度が定着していない。
登録内容の現行化を定期的に進め、平素から声掛け、見守り活動を推進する。

(健康づくり活動)

- ・健康づくり活動では、輪・和・ワークラブなどを通して図っているが、まだ一部の人だけで地域全体の健康づくりになっていない。色々な角度からのアプローチが必要。
- ・健康診断受診率周知活動では、お知らせ君を使った告知放送、ごみステーションにポスター掲示で受診率がアップしたので継続したい。

- ・地域全体の活動になっていない。意欲的に参加する人が少ない。活動計画の周知、広報に工夫が必要である。
- ・料理教室なども全ての地域の皆さんへの広がりがあればよい。
(子育て支援)
- ・きらきら学級 保健師さんや、他のお母さん、幼・小学生との交流や楽しい企画を楽しみにされている方も多く少子化が続くこの地域でも出来る限り続けたい。

近年の大野地区は人口が依然減少傾向にある。第4次大野地区地域福祉計画策定時36.49%だった高齢化率は29年度には42.2%となった。平成30年11月の統計では大野地区の人口は1,288人、537世帯。そのうち高齢者のみの世帯が383世帯となっている。小学校の児童数は平成30年3月現在47名で年々減少傾向にあり、少子高齢化が進んでいる。平成30年8月7日に第5次大野地区地域福祉計画に向け、策定委員会を設立し、4回に亘り策定小委員会を開き、第4次大野地区地域福祉計画の振返りと項目の整理を行った。松江総合医療専門学校が行った健康アンケート、自治振興協議会による買い物アンケート、総合戦略の集会で出た住民からの声などを基に「安心して暮らせるまち」の姿を描き、10年後を見据えたまちづくりについて意見交換した。「したいこと」と「出来ること」の選択と整理。その中で「続けたい事」「はじめたい事」「出来る事」の優先を諮った。少子高齢化に対応した新しいまちづくりについて地区社協、自治振興協議会をはじめ、各団体が共通認識のもと多角的な取り組みが求められている。

大野地区は、松江総合医療専門学校と特別養護老人ホーム「大野の郷」の所在地である。専門学校は、平成10年に松江医療福祉専門学校として開校し、現在看護学科、理学療法士科、作業療法士科の総勢360名程度の生徒が日々大野の地で学んでいる。大野ふるさとまつり、大野寿会の集い、なごやか寄り合い会にも積極的に参加し地域の活性化に貢献している。また、大野の郷は、平成18年に50床の施設として開所し、充実を図っている。地域福祉活動を推進する上で、松江総合医療専門学校及び大野の郷との相互の支援と協力、連携は、今後不可欠であり一層の交流が求められている。

第5次大野地区地域福祉活動計画表

～10年後を見据えた町づくり～

スローガン:いつもあなたのパートナー！みんなでつくろう福祉のまち大野

区分	活動名	みんなの声(策定資料から)	目標	具体的な取組内容	実施・協力者(団体)	財源
充実	相談体制の充実	・問題事案が適切となる形で解決したのではないかとともに良い取り組みになっている。	・気軽に相談できる体制づくりをし、対応する	民生児童委員の毎月の定例会に於いても電話、面談などで適宜相談を受ける。(相談事案について各機関もれの無いよう対応する)	地区社協、公民館、民児協、福祉推進員、(保健師、市社協地区担当、包括支援センター)	市社協補助金 自主財源
充実	なごやか寄り合い事業	・なごやか9地区、お世話係の人達が熱心に取り組んでいる。 ・年1回代表者会議を開く中、全体の情報を共有して工夫しながら地域で開催している。	1)誰でも参加しやすいなごやか寄り合いづくり 2)全地域でなごやか寄り合いを立ち上げる	①案内チラシ作成 ②若い世代も参加しやすいよう内容を工夫する。 ③若いリーダー・世話人の方に応援をお願いする。 ④なごやか寄り合い世話人研修会、養成講座を開く。	地区社協、福祉推進員、民児協、なごやか寄り合い代表者会	市社協補助金 自主財源 参加費
充実	健康づくり活動	・お知らせ君やポスターで、検診受診率アップ。 ・一部の人だけで、地域全体の健康づくりが出来ていないのでは…。機運の情勢を図っているいろいろな角度からのアプローチが必要	1)健康寿命を延ばす 2)家族、地域で声をかけあってみながら受診率の向上を図る	体力づくりを進める ①松江総合医療専門学校と連携した健康づくり②適度な運動・総合型スポーツとの共催。活動の参加。 ③食生活を見直し料理講座を開催する。 ④松江総合医療専門学校・医師・カウンセラーによる健康講座を開催する。 ⑤健康診断受診率周知活動の実施。 ⑥町民スポーツ大会の開会式時などに健診PRや重要性を話す時間を設け、若者への健康づくり意識向上を図る。	健康まつえ21推進隊、公民館、保健委員、食生活改善推進員輪・和・ワーククラブ、保健師、体育協会、松江総合医療専門学校	市社協補助金 自主財源 公民館
充実	若者交流・定住対策	実行委員会によっては、各々に動いている。	・魅力ある町(ふるさと)づくり	①おおの夏まつりを開催する。 ②若者ご縁の集い。 ③スポーツイベントを通じた若い世代の交流づくり。 ④ふるさと学習	夏まつり実行委員会、自治振興協議会、幼稚園、小学校、湖北中学校、体育協会青少協、公民館、地区体協	自主財源 公民館
充実	世代間交流(地域イベント)	・全体的に概ねできているので継続したい。 ・高齢者の皆さんが牛蒡づくりなどを通して小学生に学びを体験する機会を提供するなど	・地域住民が気軽に参加できるイベントにする	①各種スポーツイベント・町民体育祭他、各種クラブ活動の開催 ②おおのふるさと祭りの開催 ③敬老会の開催 ④世代間歴史学習講座	公民館、体育協会、幼稚園、小学校、中学校、地区社協、輪・和・ワーククラブ、各種団体	市社協補助金 自主財源 公民館
充実	松江総合医療専門学校 大野の郷との連携	大野地区にある素晴らしい医療教育資源なので、更なる住民の健康意識向上を目指し今まで以上に支援したい。お互いにメリットがあるように… ・大野の郷…買い物支援対策 ・医専…なごやか寄り合い会での講師 ・健康づくり講座	・健康フェスティバル、なごやか寄り合い会、買い物支援等で連携を深める	①松江総合医療専門学校 ・おおの健康フェスティバル ・健康講座・なごやか寄り合いの会に定期的に指導協力を要請する。 ・各種スポーツ、地域イベントへのボランティア参加、健康づくり活動への支援 ②大野の郷「買い物支援対策」の連携 ③福祉への理解を深める為、幼児・小学生・地域住民が体験交流を実施	地区社協、公民館、福祉推進員 松江総合医療専門学校 大野の郷	市社協補助金 自主財源 公民館

区分	活動名	みんなの声(策定資料から)	目標	具体的な取組内容	実施・協力者(団体)	財源
充実	要配慮者避難支援者研修会の開催	・「誰がどこに避難して」各自主防災隊の中で把握していきたい。何かあった時(特に独居)日中の連絡先など各自主防災隊で防災世帯台帳を作る必要がある。 ・今後は各自治会で要配慮者支援事業の活用・災害時はもちろん、1番大切なのは平常時の見守り	・災害時に強い地域体制づくり	制度の説明会を開催する。 ①要配慮者支援推進事業に取り組み、平常時の見守り活動を推進する。 ②要配慮者、避難支援者の登録名簿を更新する。 ③自治会・自主防災隊との連携を図り各自治会ごとに避難訓練、介助方法などを研修し、平常時から災害時に備える。 ④訪問活動の強化(配食サービス事業・愛のプレゼント交流)	地区社協、公民館、民児協、福祉推進員、自治会連合会、自主防災隊 子ども会育成協議会	市社協補助金 自主財源 公民館 子ども会育成協議会
充実	子育て支援	・少子化が進む中でも継続していきたい。	安心して子育てできる環境づくり	①子育てサロンの開設(きらきら学級)実施 ②児童クラブ月曜日～金曜日開設 ③子ども広場毎月月曜日開設	地区社協、公民館、民児協 保健師、母子保健推進員、児童クラブ指導員、子ども広場安全管理員	市社協補助金 自主財源 公民館 行政
充実	児童の安心安全ネットワーク	・少子化が進む中でも継続していきたい。	児童の登下校の安全、安心、地域の見守り活動を推進する	登下校時の交通安全指導にあたる。 ①青色回転灯装備車により、巡回パトロールを毎月実施する。 ②朝のあいさつ運動を毎月実施する。 ③湖北中学校校区「一斉あいさつ運動」を毎月実施する。	地域安全推進委員会、小学校、中学校、PTA、青少協、保護司、民児協、交通指導員、交通安全協会、更生保護女性会、公民館、秋鹿駐在所	各種団体自主財源
充実	生活環境の充実	大勢の方の要望に十分添えない所もあるが、出来る限り努めていきたい。	通院、買い物、交通の不便を解消する	①コミュニティバスの利用促進を図る ②予約型コミュニティバスの定着・利用しやすいダイヤの改正 ③地域の生活環境への点検(歩道・防犯灯・ガードレールなど)	自治会連合会、自治振興協議会、コミバス利用促進協議会、地域安全推進委員会、交通指導員会	自治連合会、各種団体自主財源
充実	社協だよりの発行啓発チラシ配布	・今まで通り継続	・社協の活動状況を地域にタイムリーに周知し、地区活動への参加を要請する	地区社協・小地域の福祉活動状況を周知する	地区社協、公民館、民児協 福祉推進員	市社協補助金 自主財源
充実	地区社協・民児協・福祉推進員の連携	・自助・共助の観点からもより強い連携がとれれば……。	・相互の連携を図り、よりきめ細やかな活動を推進する	①民生児童委員・福祉推進員・行政・地区社協と情報交換会を年2回開催する。 ②高齢者要配慮者の見守り訪問活動の情報共有化を図る。 ③民生児童委員と福祉推進員の連携を密にする。	地区社協、公民館、民児協 福祉推進員	市社協補助金 自主財源
充実	地域福祉活動計画の進行管理委員会	・計画を年1回は振返って見直しをかける必要がある。	第5次地域福祉活動実施計画の着実な進行を図る	毎年2月に策定小委員会を開き計画の振り返り、見直しを図る。	地域福祉計画策定委員会	市社協補助金 自主財源
新規	福祉講座への参加	・福祉講座の開催は長年やり続けてきたが、内容も各地区共通して少々マンネリ化してきた所がある。もう十分やったのでは? ・いろいろな所で開催される講演会参加を選択しながらうけた方がいいのでは?	タイムリーな情報収集と周知徹底	①各講座の情報収集・情報提供で、より学びたい内容の講座に参加していただく。 ②専門学校へ講座の依頼	地区社協、公民館 健康まつえ21推進隊、行政・医療機関 松江総合医療専門学校	市社協補助金 自主財源
新規	ボランティアネットワークの開設	有償ボランティア制にすれば……高齢者の生きがいづくりに繋がる	ボランティアネットワーク設立に向けての仕組みづくり	日常の困りごとに対応できるメンバーや仕組みづくりを協議し開設に繋げる	地区社協、公民館、ボランティアグループ関係者	市社協補助金 自主財源

第5次大野地区地域福祉活動計画

(計画期間 2019年4月～2024年3月) ～10年後を見据えたまちづくり～

スローガン:「いつもあなたのパートナー! みんなでつくろう福祉のまち大野」



見守りネットワーク

活動名	取組内容	実施主体団体
困りごと相談	民児協による電話や、面談などで適宜相談を受ける。	地区社協・公民館・民児協
なごやか寄り合いの会	世話人研修会などで、若い世代も参加しやすい内容を工夫する。	地区社協
支え合い研修会の開催 (災害時に強い体制づくり)	◎平常時の見守り活動の推進。◎自治会、自主防災隊と連携し、自治会ごとの避難訓練、介助方法を研修し災害時の支え合いに備える。訪問活動の強化(配食サービス)	地区社協・公民館・福祉推進員・自治会連合会・自主防災隊
生活環境の充実	通院、買い物、交通の不便を解消する。◎コミュニティバスの利用、促進を図る。◎予約型コミュニティバスの定着・利用しやすいダイヤの改正◎地域の生活環境の点検	自治会連合会・自治振興協議会・コミュニティバス利用促進協議会
子育て支援	安心して子育て出来る環境づくり(きらきら学級・子ども広場・児童クラブ)	地区社協・公民館・民児協・母子保健推進員
児童の安心安全ネットワーク	◎青色回転灯装備車、巡回パトロール◎朝のあいさつ運動・一斉あいさつ運動	地域安全推進委員会・青少協・保護司・民児協・交通指導員
地区社協・民児協福祉推進員の連携	◎情報交換会◎見守り訪問活動の情報の共有化◎民生児童委員と福祉推進員の連携を密にする。	地区社協・公民館・民児協・福祉推進員
ボランティアネットワークの開設	日常の困りごとに対応できるメンバーや仕組みづくりを協議し開設に繋げる。	地区社協・公民館・ボランティア関係者



健康寿命を延ばす

健康づくり活動	◎適度な運動・総合型スポーツとの共催◎料理講座、健康講座の開催◎健康診断受診率周知活動、若者にむけての健診周知活動の実施	健康まつえ 21 推進隊・公民館・食生活改善推進員・輪-和-クラブ
松江総合医療専門学校との連携	◎大野健康フェスティバル◎なごやか寄り合いの会、指導協力◎健康づくり活動への支援◎体験交流の実施	地区社協・公民館・福祉推進員・松江総合医療専門学校
大野の郷との連携	◎買い物支援対策の連携	地区社協・公民館・福祉推進員・大野の郷
福祉講座への参加	◎各講座の情報収集・情報提供で、より学びたい内容の講座に参加して頂く。	地区社協・公民館・健康まつえ 21 推進隊・行政-医療機関・松江総合医療専門学校



生きがいづくり (支え合い)

若者交流 定住対策	◎おおの夏まつりの開催◎若者ご縁の集い◎スポーツイベントを通じた若い世代の交流づくり◎ふるさと学習	公民館・夏まつり実行委員会・地区体協・青少協・自治振興協議会・各種団体
世代間交流 (地域イベント)	◎各種スポーツイベント・町民体育祭他、各種クラブ活動の開催◎敬老会、愛のプレゼント交流、世代間歴史講座の開催	公民館・地区社協・地区体協・地区子ども会・輪-和-クラブ・各種団体



伝える (共有する)

社協だよりの発行 啓発チラシ配布	地区社協・小地区の福祉活動状況や各情報をお知らせする。	地区社協・公民館・民児協・福祉推進員
福祉活動計画の進 管理委員会	第 5 次地域福祉活動計画の振り返り、見直しを図る。	地域福祉計画策定委員会